

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290500014		
法人名	株式会社マウントバード		
事業所名	グループホーム みどりの家 1F		
所在地	千葉市緑区誉田町2-11-105		
自己評価作成日	平成22年11月5日	評価結果市町村受理日	平成23年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・入居者様個人個人行きたい場所、食べたいものが違うので個別外出を行っている。 ・入居者様一人一人のニーズを理解し、有する能力を見極め、その能力を活かせる様に支援し、その人らしく、満足した生活が送れるよう努めている。</p>

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成22年11月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>記録や必要な書式が整備されており、多忙な中でも職員全員で事業所の運営に真剣に取り組んでいる様子が伺える。薬の飲み忘れがないよう、服薬後の空き袋を容器に集めて確認する、ミーティングは職員全員が出席できるよう夜間に設定する等、サービスの質の向上に向けて工夫している。個別対応にも努めており、畑仕事をやりたい人や台所で手伝いたい人、散歩に行きたい人などそれぞれに束縛することなく、自由に生活する支援をしている。地域交流については、毎月開催される自治会長、民生委員との会議に出席し、事業所が地域で孤立することのないよう努めている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価(1階)および外部評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・笑顔・真心・信頼のある介護 ・朝礼で復唱している	法人の理念とは別に、職員自ら、事業所独自に「笑顔・真心・信頼」という理念を作り、毎朝の申し送り時に復唱している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・挨拶は必ず行っている。 ・気軽に立ち寄って下さるように声掛けしている。	今年のパザー開催時には近所にチラシを配り、地域の人達も参加を呼び掛けた。地域の行事にも積極的に参加しており、地域との関わりを大切にしている。	今後も更に地域に溶け込んで暮らし続けられるように、ボランティアの受け入れや、認知症についての勉強会を開くなど、積極的な活動を期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防訓練に参加の声掛け、パザーや夏祭りに来て頂き、その都度説明している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、自治会長、民生委員、協力医療機関、包括支援センター代表の方等の貴重な意見は今後のサービス向上に向け実践に努めている。	今年5回推進会議を開催した。協力医療機関の参加も時々ある。会議では事業所取り組みを報告し、地域の理解を得る努力をしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市、区役所とは交流があり、質の向上に努めている。	市町村とは頻りに連絡を取り合っている。介護保険課とはグループホーム連絡会を通じて知り得た情報や、身体拘束などについても話しあい、事業所の取り組みについても積極的に伝えている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議を通して研修の取り組みをし、全職員が学んでいる。	身体拘束については月1回のミーティングで確認し合っている。夜間は1時間ごとに巡回し、昼間も見守りを徹底することで、入居者の行動制限をしないように努力している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は身体拘束、虐待防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームみどりの家 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護について知識をもち、活用できるように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会や毎月ご家族へ手紙を出している ・問題点等あれば解決に向け努めている。	玄関に意見箱は設置されているが、むしろ来訪の際の会話から意見を聞き取ることが多い。意見等は職員で共有し、ミーティングで話し合い、運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度管理者が対応している。	「管理者への伝言ノート」を活用したり、ミーティングを夜間に設定して休日職員も参加できるように工夫している。配薬の仕方の改善、「家族と入居者の連絡ノート」など、職員の提案で改善したものは多い。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	話し合いの機会をもち、働きやすい職場作りに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務しながらヘルパー2級を取得したり、研修等で情報交換し学んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉連絡会等の研修会に参加し、同業者の方々と交流し、質の向上に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームみどりの家 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>日常生活の中で、常時傾聴し、安心の確保に努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>気軽に面会できる雰囲気作りとご家族と職員の信頼関係作りに気を配っている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>電話等でご家族に連絡し、初期対応に心掛けている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一人一人の能力が活かせるように関わり、共感し合える関係作りをしている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族に日常の様子を報告したり、ケアプランにより現状を伝えている。又、ご家族の悩みはその都度責任者が時間を作り対応に努めている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご利用者が知人や友人に手紙を出すときに手助けをしたり、電話を掛け合う機会を作っている。</p>	<p>友人の面会は常にオープンにしている。家族には定期的に入居者の様子を知らせ、いつでも来やすいように配慮している。面会の少ない家族にも呼びかけをして、関係性をつくる支援をしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ご利用者の性格を見極めながら、一人一人が楽しく過ごせるように配慮している。</p>		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームみどりの家 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方には、手紙等で当ホームの近況を伝えたり、ご家族からの相談・支援に応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスを開催し、職員全員でアセスメントに参加して作成している。	職員は日ごろから入居者一人ひとりとしっかりかかわり、よく観察し、言葉からだけでなくその表情や行動からも思いを汲み取るように努めている。夜勤の時間帯にゆっくり話を聴くことも多い。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族等から話を伺い、基本情報としてアセスメントシートを作成している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に気付ける職員である事に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族の意見を基本に、全職員でアイデアを出し、介護計画を作成している。	入居者ごとに分けした「気が付いた事」ノートがあり、普段から職員は気が付いた事などを書き込んでいる。その気付きやミーティングで出された意見なども参考にモニタリングやカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録とチェック票(バイタル・その他)を活かし、介護計画、作成を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化にすばやく対応し、介護計画の変更に取り組んでいる。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームみどりの家 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族、地域の方々と交流を図り、安心して頂き、楽しみのある暮らしを持つ。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と密な連絡を取り、いつでも相談・医療を受けられるようになっている。	提携病院から月2回の往診があるが、かかりつけ医への受診も支援している。家族が付き添えない場合は、職員が送迎・付き添いをしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護師に相談し、適切な治療が受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症。体の機能が衰退しないようにお見舞いに行き、情報収集・修得したりして早期退院に努め支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に医師とご家族・職員が連携をとり、終末期のあり方について支援している。	重度化した場合の対応や看取りについての指針ができており、本人や家族、職員間で共有している。提携病院や訪問看護ステーションの協力のもと、実際の看取りの事例もある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者への報告の徹底、初期対応の訓練を実践している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の研修を受けた職員が指導している。	消防署、防火管理者である職員の指導のもと、前回、夜間を想定した避難訓練を行った。スプリンクラーも今年度中に着工予定である。ホームが防災や災害時の地域の拠点となることも視野に入れた、地域との協力体制を構築したいと考えている。	現在法人内でも検討中であるが、火災対策の他、水害や地震に対する、備蓄の見直し・強化をはじめとする備えも万全にすることが期待される。また、引き続き地域との協力体制の推進が望まれる。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームみどりの家 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守り、言葉掛けや対応には十分配慮している。	研修やマニュアルの整備により、職員は入居者の尊厳とプライバシーについて共通理解している。職員のことばがけや対応にも、人生の先輩である入居者への配慮が見られた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望に傾聴し、その人らしい支援をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者の希望に応じ支援し、ペースを大切にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を可能な限り支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と職員と一緒に食事作りや後片付けを行っている。	食材と献立は宅配業者から届くが、そこに入居者が作っているホームの庭の畑から、収穫した野菜を加えたりしてアレンジすることも多い。誕生会では、主役の希望のごちそうが並ぶ。食事は入居者に語りかけながら職員も一緒に楽しんでいた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好きな飲み物を提供したり、脱水予防として寒天ゼリーを作り工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内衛生の習慣ができるよう声掛けをし、義歯の清潔も見守り行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームみどりの家 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレのタイミングを把握し、トイレ誘導及び声掛けで促し、失敗がある時はさりげなく交換する等、羞恥心に配慮している。	排泄チェック表で一人ひとりのパターンを把握し、日中・夜間とも、さりげない声かけや誘導・介助で排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に摂取してもらい、便薬等で調整を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間帯は決まっているが、希望があれば合わせた対応の支援はしている。	入浴は週3回が基本であるが、本人の状態や希望に応じ、柔軟に対応している。近くの温泉に出かけ、入居者と職員と一緒に入浴を楽しむこともある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	畳コーナーを利用したり、状況に応じて対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬箱に薬の内容を提示し、一覧表として表にして全職員が確認できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内での生活に活気があり、楽しい一日を過ごせるように、生活歴や嗜好品を参考に、外出したり気分転換ができるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・個別外出をし、ご本人の希望に沿って外出をしている。 ・気分転換が図れるように支援している。	近隣には気軽に散歩できる場所は少ないが、ゴミ出しのついでにホームのまわりを歩いたり、買い物や公園に車で出かけることもある。また、公民館の教室に参加したり、あんみつを食べたりコーヒーを飲みながら外出したりしている。初詣、お花見、ぶどう狩りなど季節の折々に出かけることも多い。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームみどりの家 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望により、買物したいと訴えがあるとき、ご家族からの預かり金を用いてお金を使えるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望があればその都度職員が対応を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感、春夏秋冬を通して、四季に合った作品を職員、ご利用者共に作りだし、リビング・廊下・玄関前等に飾っている。	ホームは木を多く使った造りになっており、柔らかい雰囲気を醸し出している。1階のウッドデッキに置かれたソファでまどろむ入居者もいた。広い庭ではバーベキューを楽しむこともある。カーテンで光が調節された日当たりのよいリビングには入居者と職員による季節感溢れる作品が飾られていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士気のあった方々でリビング等で話をされたり、食事をしたりと工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた馴染みの物を持ち込み、居室に置かれ、居心地よく過ごせるように努めている。	それぞれの居室には、馴染んだ家具、大切な人の位牌や写真、愛読書の並んだ本棚など、好みのものが置かれてあり、入居者一人ひとりの個性が感じられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、浴室、トイレがバリアフリーになっており、自立した生活が営めるように工夫している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所